

# 風水害対策

## 注意報・警報の発表基準 (大雨)

種類	発表の時期	発表の基準
大雨注意報	大雨によって、災害が起こるおそれがある場合。	※1 表面雨量指数基準：9 ※2 土壌雨量指数基準：76
大雨警報	大雨によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。	表面雨量指数基準：16 土壌雨量指数基準：—
※3 記録的短時間大雨情報	1時間雨量 100mm	
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合。	

※上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。

※1 表面雨量指数とは、短時間強雨による浸水害の危険性を示す指標で、降った雨が地中にしみ込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したものです。

※2 土壌雨量指数基準とは、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数のことです。

※3 大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表するものです。

## 注意報・警報の発表基準 (強風)

種類	発表の時期
強風注意報	平均風速が13m/sと予想される場合。
暴風警報	平均風速が18m/sと予想される場合。

## 注意報・警報の発表基準 (洪水)

種類	発表の時期	発表の基準
洪水注意報	河川の増水によって、災害が起こるおそれがある場合。	※4 流域雨量指数基準：谷田川流域=13.7、板倉川流域=2.9、鶴生田川流域=6.4 指定河川洪水予報による基準：利根川上流部[八斗島・栗橋]、渡良瀬川下流部[足利]
洪水警報	河川の増水によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。	流域雨量指数基準：谷田川流域=17.2、板倉川流域=3.7、鶴生田川流域=8 指定河川洪水予報による基準：渡良瀬川上流部[高津戸]、利根川上流部[八斗島・栗橋]、渡良瀬川下流部[足利・古河]

※4 流域雨量指数基準とは河川の流域に降った雨水が、どれだけ下流の地域に影響を与えるかを、これまでに降った雨(解析雨量)と今後数時間に降ると予想される雨(降水短時間予報)から、流出過程と流下過程の計算によって指数化したものです。

## 雨の降り方と注意報・警報の関係(目安)

降っている雨を観察することで、おおよその雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

発表目安	記録的短時間大雨情報				
	大雨注意報		大雨警報		
1時間雨量(mm)	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
説明	ザーザーと降る雨。地面一面に水溜まりができる。雨が長引く場合には、注意が必要。	どしゃ降り。傘をさしても濡れてしまうほどの雨。下水があふれ、また崖崩れの心配もある。	バケツをひっくり返したように降る雨。崖崩れもおこりやすく、道路規制も行われる。避難の準備を。	滝のように降り、ゴーゴーと降り続く雨。あたりが水しぶきで白っぽくなる。水害の発生の可能性は大。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。大規模な災害の発生のおそれが強く、厳重な警戒が必要。

## 台風の大きさと強さ (気象庁による)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、大きな被害をもたらします。台風の接近が予想されるときは、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い	33m/s以上~44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上~54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

## 集中豪雨

集中豪雨は、大量の雨が数時間にわたり集中して強く降り、雨量が数10mm~数100mmに達する「局地的な大雨」のことです。狭い地域で突発的に降るため、警報・注意報の発表前や短時間のうちに河川の氾濫、土砂災害、家屋浸水等の災害を引き起こす場合があります。

## 雨風が強まってきたときは

大雨や台風などが接近してきた場合、おおまかに以下のような流れの対応を考えましょう。無理をせず、早めの避難が重要です。

避難に関する情報を確認する




- 地下室にいる場合は、早く地上へ移動
- 家庭内からの排水を控える(風呂水の排水、洗濯など)
- 家の外の確認  
飛ばされそうなもの、流されそうなものをしまう など
- 家の中の確認  
窓ガラスの破損に備え、内側からテープをはる。カーテンをしめる など
- 大事な家財などを高い場所(2階など)に移動させる
- 簡単な浸水対策  
水のうや土のうで入口を囲む。タオルで窓のすき間をふさぐ など
- 家族の居場所を確認する  
離れていたら安否を確認。避難を事前に連絡
- 避難の準備をする  
持出品の用意。避難先、避難路の確認

**注意**

**立体交差点(アンダーパス)**  
道路や鉄道の下を通るアンダーパスには水がたまり、通行ができなくなります。

**低いところ(窪地)**  
アンダーパスの他、周辺より低くなっている道路も水がたまり、通行ができなくなります。

## 洪水災害とは

洪水	氾濫	水害
 <p>洪水とは、雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていません。これが通常の姿です。</p> <p>ところが、川幅いっぱいになり水がおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。</p>	 <p>氾濫とは、雨などにより、住宅地や農地などに水があふれることをいいます。川から水があふれることを「外水氾濫」といいます。川から水があふれるのではなく、住宅地や農地に降った雨がそのままたまってあふれることを「内水氾濫」といいます。</p>	 <p>水害とは、水によって起こされる災害のことです。外水氾濫も内水氾濫も水害と呼ばれます。ただし、海水による水害の場合は、高潮災害、津波災害といった呼び方をされます。</p>